

Reference 9 : JP Utility Model Publication (Kokai) No. 02-010271 U (1990)

Application number: S63-81784

Date of filing: June 20, 1988

Date of publication of application : January 23, 1990

Applicant : SOICHIRO YAMASHITA

Inventor : RYUHODO SEIYAKU KK

Int .Cl.⁵ : B65D 81/32

1/04

21/02

Title: COMPOSITE CONTAINER

Summery:

A composite container provides two separate containers 1, 2 which are jointed together.

公開実用平成 2-10271

PA 03-529
reference 9

⑨ 日本国特許庁 (JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑩ 公開実用新案公報 (U) 平2-10271

⑫ Int. Cl. 5

識別記号

庁内整理番号

⑬ 公開 平成2年(1990)1月23日

B 65 D 81/32
1/04
21/02

U 7191-3E
B 6671-3D
Z 7214-3E

3 0 3

審査請求 有 請求項の数 2 (全 頁)

⑭ 考案の名称 複合容器

⑮ 実 願 昭63-81784

⑯ 出 願 昭63(1988)6月20日

⑰ 考 案 者 山 下 聡 一 郎 大阪府吹田市岸部南2丁目17番1号 龍宝堂製薬株式会社
内

⑱ 出 願 人 龍宝堂製薬株式会社 大阪府吹田市岸部南2丁目17番1号

⑲ 代 理 人 弁理士 鎌田 文二

明 細 書

1. 考案の名称

複合容器

2. 実用新案登録請求の範囲

(1) 背中合せに突合せ連結する一対の分容器からなり、一方の分容器の背壁に抜止突縁がある連結用ブロック状突起を設け、他方の分容器の背壁に上記突起が素材の弾性で嵌着する凹所を設け、連結状態の両分容器の口部に一個のキャップを嵌め合せるようにした複合容器。

(2) キャップの内側に、両分容器の口部に嵌め合せる所要形状の中栓を設けた請求項(1)記載の複合容器。

3. 考案の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

この考案は、液体、粉体等を別々に収納した一対の分容器を連結してなり、同時に両者を吐出させることができる複合容器に関するものである。

〔従来技術〕

例えばビタミンCと酵素等液体と粉体とを使用

直前に混合して使用する化粧品等が知られている。
この化粧品は最初から両者を混合しておくとし、力が落ちて効果が發揮できないので、別々に容器に収納されており、第18図に示すように、液体容器51と粉体容器52との組合せからなっていた。

〔考案が解決しようとする課題〕

ところが、上述のように複数の容器の組合せでは、引出しやバッグの中に他の容器と混ぜて入れておくとし、使用時取出すのにかなり手間取ると共に、途中で一方を紛失すると他方が無駄となる等の問題点があった。また各容器から適量をそれぞれ取出すのに2回同じ取出操作をしなければならず、手間がかかる欠点があった。

この考案は、このような問題点に鑑みてなされたものであり、その目的とするところは、別々に製造してから容易に連結接合でき、一個様容器として使用できると共に、1回の絞り出し操作で済むような複合容器を提供しようとするものである。

〔課題を解決するための手段〕

上記目的を達成するために、この考案における

複合容器は、背中合せに突合せ連結する一対の分
容器からなり、一方の分容器の背壁に嵌止突縁が
ある連結用フロック状突起を設け、他方の分容器
の背壁に上記突起が素材の弾性で嵌着する凹所を
設け、連結状態の両分容器の口部に一個のキャッ
プを嵌め合せるようにしたのである。

また、キャップの内側に、両分容器の口部に嵌
め合せる所要形状の中栓を設けることもできる。

〔作用〕

このように構成された複合容器は、通常合成樹脂
脂形成品から形成され、復元弾性を備えており、
一対の容器を背中合せにして力を入れて突合せる
と凹所に突起が嵌入し安定した一体様の容器とな
り、更に一個のキャップを嵌め合せると取扱中全
く安全である。

また中栓のあるものは、両分容器の吐出口がて
の中栓にあって、両吐出量を調整したり両者を溜
めて混合したりすることができる。

〔実施例〕

第1図～第3図は、この考案の第1実施例を示

し、この複合容器は半硬質の合成樹脂成形品から形成され、背中合せに突合せ連結する、通常のボトルを二つ割りしたような形状の一对の分容器 1 と分容器 2 とからなり、一方の分容器 1 の平面状背壁 3 の略中央部に、先端に向けて広がる扁平な略直方体状の連結用突起 4 が連設され、他方の分容器 2 の背壁 5 には上記突起 4 が素材の弾性で嵌着する奥に向けて広がる平面方形状の浅い凹所 6 が連設され、連結状態で円筒形となる両分容器の口部 7、8 に一個のキャップ 9 が螺着されて連結を強化してなるものである。

各分容器 1、2 は、平面状背壁 3、5 を突合せるとぴったりと接触して、あたかも一個様のボトル形容器に見えると共に、半円筒形口部 7 の外周面及び半円筒形口部 8 の外周面に斜め状突条 10 及び突条 11 が設けられ、キャップ 9 のめねじ 12 に螺合する螺旋状おねじを形成している。

突起 4 は、上下左右の四側面が先端に向けて広がる台形状を形成し、凹所 6 に多少力を入れて押込むとぴったりと凹所 6 に嵌まり込み確実な抜止

性が得られる。

キャップ9の内面にはパッキング13が内装されている。またキャップは、容器の口部にねじ嵌合するほか、凸条と凹条の嵌合等何れでもよい。

なお、一对の分容器1、2は、混合すべき液体と粉体等の混合比率に対応してその容積即ち大きさを適宜選択することができる。

第4図及び第5図は、この考案の第2実施例を示し、両分容器1、2が連結した口部に、小さい対の吐出口14を備えたキャップ状中栓15が嵌着されたものである。中栓15は円形頂壁16と口部に内接する円筒形胴部17とからなり、頂壁16に對の吐出口14が穿設されると共に下面中央部に両分容器の背壁3、5を突入させる直線状溝18を備えた突縁19が下向きに連設されている。

この第2実施例の複合容器は、液体と液体又は液体とクリーム状流体等の収納に適しており、可撓性を備えているので力を入れて容器を絞ると同時に内容物が吐出されるようになる。なお、吐出

口14の大きさは、混合比率に対応して適宜選択をすることができる。

第6図及び第7図は、この考案の第3実施例を示し、この複合容器は、一方の分容器20が硬質プラスチック成形品から形成されると共に下端にノック式押出装置21を備え、この分容器20と他方の分容器2とが略同一の高さになっている。分容器20は主として粉体収納用であり、下端開口部に内向きのフランジ22と浅い凹所23が連設されると共にここに上部開口状筒形押上底24が上下スライド自在に嵌入され、凹所23に装填したコイルばね25によって押上底24が常時下方に突出している。

また他方の分容器2には、口部に吐出口14を備えた中栓15が嵌着されている。この第3実施例では分容器2は胴部を絞ると流体が吐出口から吐出し、分容器20では押上底24を上向きに押上げると粉体が所要量口部から吐出されると共に、指を離すと押上底が元の位置に自動復元するようになる。

第8図及び第9図は、この考案の第4実施例を示し、この複合容器は、第2実施例の応用例で中栓15に工夫を施したものである。この中栓15は、一方の分容器1の口部7に嵌入する部分に1回の吐出分を溜める上部開口の平面半円形混合室26が連設され、混合室26の底面の吐出口に逆止弁27が設けられている。この第4実施例は分容器1にクリーム状流体を収納し分容器2に粉体を収納するのに好適である。なお、中栓15の分容器2の口部8に対応する吐出口14を、粉体が出やすいようにするため複数の小孔とすることができ。

第10図及び第11図は、この考案の第5実施例を示し、この複合容器は、第4実施例の応用例で中栓15に工夫を施したものである。この中栓15は、クリーム状流体収納用分容器1の口部7に嵌入する平面半円形混合室26の底面中央に円筒形吐出管28が直立状に連設され、吐出管28の頂部に逆止弁29が設けられ、また粉体収納用分容器2の口部8に対応する部分の平面半円形頂面に

多数の粉体吐出用小孔 30 が規則正しく配設されている。

第12図及び第13図は、この考案の第6実施例を示し、この複合容器に用いる中栓 15 は、液体又は乳液体収納用分容器 1 の口部 7 に嵌入する混合室 26 の底面中央に円形吐出口 31 が設けられ、粉体収納用分容器 2 の口部 8 に嵌入する部分に、逆様にする操作を 2 回行くと定量の粉体が出る粉体定量吐出口 32 が設けられている。この粉体定量吐出口 32 は、上面の凹所を溜め部 33 とし、他端が開いた断面 U 字形状底壁 34 と、溜め部 33 に向く突起を備え、底壁 34 と共に屈曲した通路を形成する断面逆 U 字形頂壁 35 とからなっている。

第14図は、この考案の第7実施例を示し、この複合容器は、各分容器 1、2 の内部に底面に達する吐出パイプ 36 が内装され、口部に両吐出パイプの上端を支持する周壁 37 の高い混合カップ兼用中栓 15 が嵌入され、キャップ 9 が螺着されるものである。各吐出パイプ 36 の上端には逆

止弁 38 が設けられている。各分容器は可撓性であり絞ると各吐出パイプから液体、乳液体等が中栓の上部の周壁 37 と中壁 39 とからなる円筒形カップ部 40 に吐出されるようになり、このカップ部 40 で両液を混ぜ合せることができて便利である。

第15図及び第16図は、この考案の第8実施例を示し、この複合容器は第7実施例の応用例であって、この混合カップ兼用中栓 15 には、両吐出パイプの内径が多少相違すると共に各吐出パイプの上端に高さ及び内径が相違する直立管 41 がカップ部 40 内に起立しており、周壁 37 の外面に上下2段の目盛 42 が刻設されている。この実施例では、中栓 15 を透明体又は半透明体にしておくと液体、乳液体の吐出量を正確に計量することができて便利であり、また吐出パイプの内径及び直立管の高さ、を適宜変更することにより各分容器から吐出される分量を調節することができる。

第17図は、この考案の第9実施例を示し、この複合容器は、各吐出パイプ 36 の上端を支持する

中栓15にキャップ9を介して噴射ポンプ43が取付けられたものであり、噴射ポンプ43の頭部を下方へ押すことによって混合液体がノズルから噴射されるようになる。

なお、第1、第2、第4、第5、第6、第9の各実施例の複合容器は硬質プラスチック成形品又は一方の分容器をガラスびんからも形成することができる。

〔考案の効果〕

この考案は、上述の通り構成されているので、次に記載する効果を奏する。

請求項(1)の複合容器においては、一対の分容器が接着剤や巻きバンド等の他の資材を用いることなく一挙動で連結され且つ外觀上も一個様容器と見えて体裁が良く、消費者においては従来のように、使用時混合すべき例えば液体と粉体の両容器を探すような手間が省略できると共に絞ると同時に分容器から液体、粉体等が出てくるので便利である。

請求項(2)の複合容器においては、両分容器の口

部がこの中栓で連結されていて、取扱中しつかり分容器から出す液体、粉体の分量を調節したり、混合させたりすることができて便利である。

4. 図面の簡単な説明

第1図は、この考案の第1実施例を示す分解斜

視図、第2図及び第3図は同上の縦断面図及び要

部横断面図、第4図は第2実施例を示す縦断面図、

第5図は同上に使用する中栓の平面図、第6図及

び第7図は第3実施例を示す斜視図及び縦断面図、

第8図及び第9図は第4実施例を示す縦断面図及

び使用する中栓の平面図、第10図及び第11図は第

5実施例を示す縦断面図及び使用する中栓の平面

図、第12図及び第13図は第6実施例を示す縦断面

図及び使用する中栓の平面図、第14図は第7実施

例を示す縦断面図、第15図及び第16図は第8実施

例を示す縦断面図及びこの口部の斜視図、第17図

は第9実施例を示す縦断面図である。

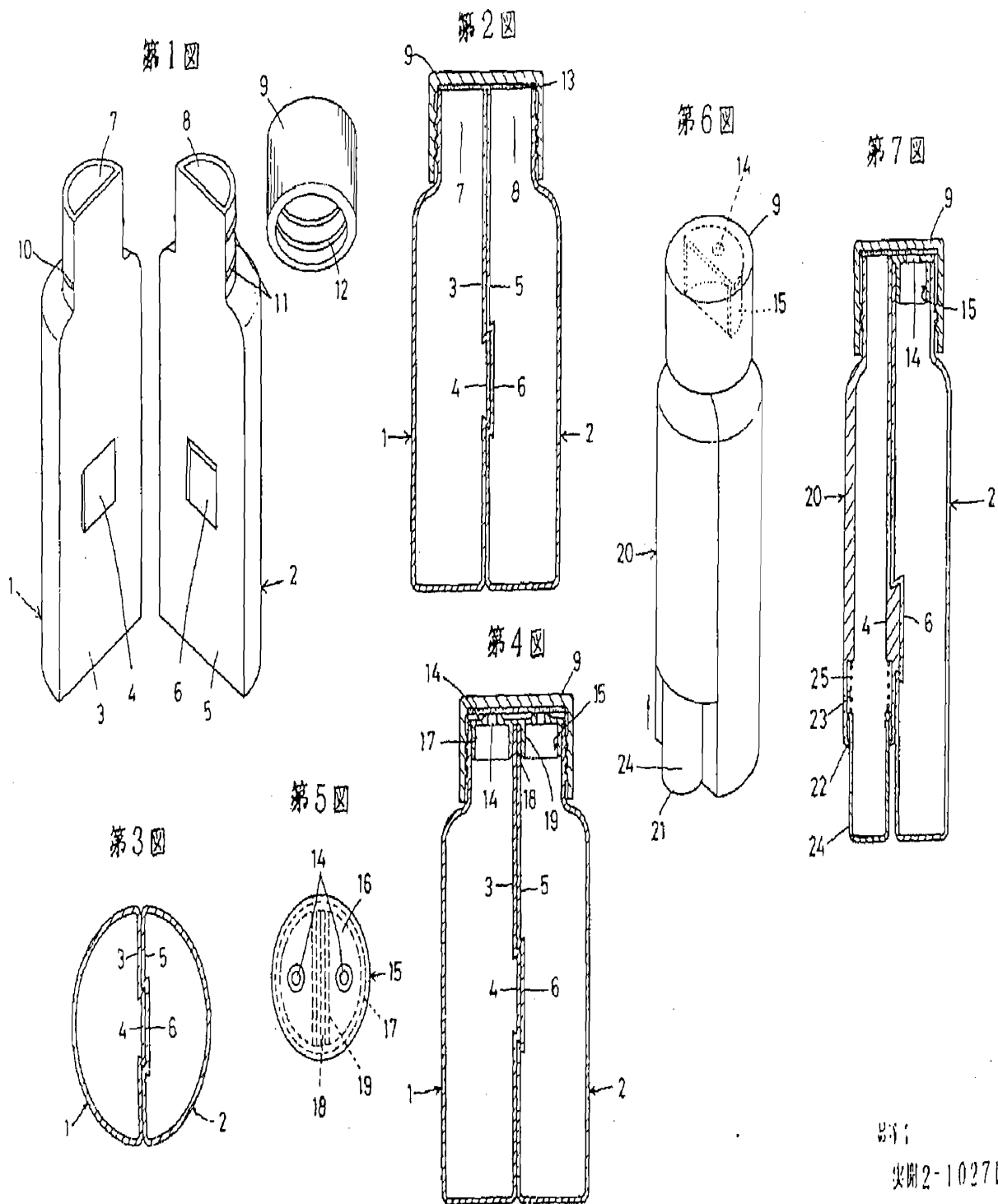
また第18図は従来例を示す斜視図である。

1、2……分容器、 4……突起、

6……凹所、 7、8……口部、
9……キャップ、 15……中栓、
36……吐出パイプ、 43……噴射ポンプ。

実用新案登録出願人 龍宝堂製薬株式会社

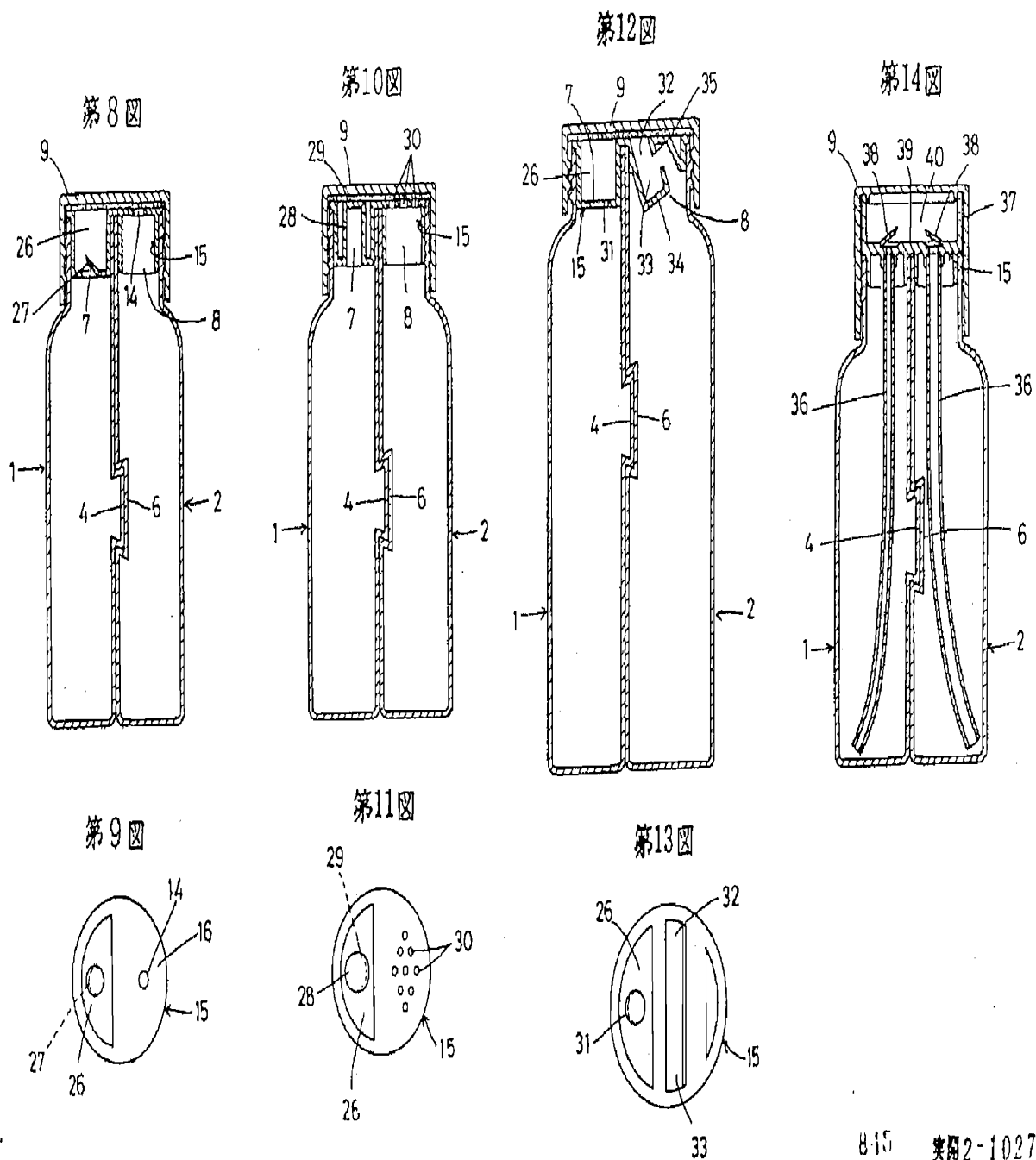
同 代理人 鎌 田 文 二



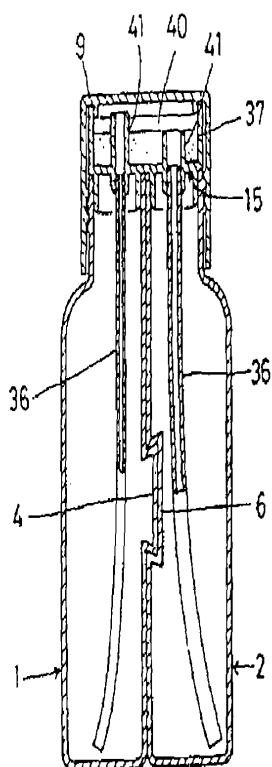
出願人

実用2-10271

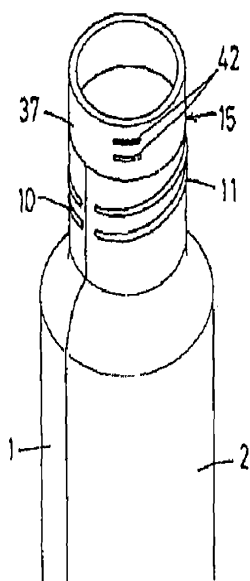
出願代理人 鎌田文二



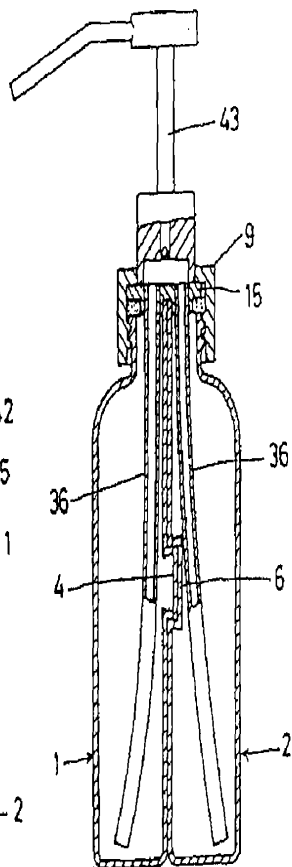
第15図



第16図



第17図



第18図

